



カルチャートーク Creators@Kamogawa

Creators@Kamogawaは、日本とドイツのクリエイターが、アートやカルチャーに関連する話題について語り合うイベントシリーズです。

第1部：新しい楽器の誕生

古来、様々な楽器が様々な文化に生まれてきました。手足など我々自身の身体に始まり、石笛や弓や土鈴を経て、各国に伝わる管弦打楽器まで。近年では電気楽器や電子楽器も発明され、ロックやテクノなど新しい音楽ジャンルの成立に一役買っています。他方、交通や通信の発展とともに「異文化の発見」が相次ぎ、ある文化に固有の楽器や奏法が、広く共有されるケースも増えてきています。グローバル化とITの時代にはどのような楽器と音楽が生まれ、社会にどんな変化をもたらすのか。日独の作曲家が語り合います。

第2部：ドキュメンタリー演劇の力

1960年代から70年代にかけて、テロや暴力をも伴った政治運動が活発化。社会に深い傷跡を残すとともにヨーロッパ諸国を大きく変革しました。多くの芸術家がこの主題に関心を示し、ドイツでは当時の事件に材を取った映画や演劇が多数つくられています。日本でもかつては、学生運動などを主題とする作品が制作されましたが、最近ではあまり見られない模様です。歴史、政治、集会的記憶などをテーマとする芸術表現の未来とは？新たな「政治の季節」に、ドキュメンタリー演劇に深く関わる創作者3人が意見を交わします。

トークの後は、館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』にて、ドイツビールやおつまみを片手に交流をお楽しみください。交流会では、滞在中のドイツ人芸術家の作品も、モニターでご覧いただけます。



© Rie Watanabe

ジモン・ルンメル (作曲家)

Simon Rummel (Komponist)

1978年生まれ。ケルンでピアノと作曲を、デュッセルドルフで美術を学んだ。実験的な楽器の製作や作曲に取り組み、自作の微分音オルガンによるCD『Harmonielehre』で、2011年 QuattroPole ロベール・シューマン賞を受賞。演劇や映画のための作曲も手がける。2012年、「ジモン・ルンメル・アンサンブル」を結成。ヴィラ鴨川滞在中は、日本の笙をリサーチし、そこから着想を得た独自の楽器の製作や作曲を行う予定。www.simonrummel.de



三輪 真弘 (作曲家)

Masahiro Miwa (Komponist)

1958年生まれ。コンピューターを用いたアルゴリズム・コンポジションと呼ばれる手法で数多くの作品を発表。第10回入野賞1位、第14回ルイジ・ルッソ国際音楽コンクール1位、第14回芥川作曲賞、2010年度芸術選奨文部科学大臣賞(芸術振興部門)ほか受賞歴多数。2007年、「逆シミュレーション音楽」がアルス・エレクトロニカのデジタルミュージック部門にてゴールデン・ニカ賞(グランプリ)を受賞。情報科学芸術大学院大学(IAMAS)学長。www.iamas.ac.jp/~mmiwa/



ハンス=ヴェルナー・クレージンガー (演出家)

Hans-Werner Kroesinger (Regisseur)

1962年生まれ。ギーゼンで演劇学を学び、ロバート・ウィルソンの演出助手やドラマトウルクを務めた。1993年以降、自身の演出作品をベルリナー・アンサンブルやHAUなどの著名劇場や演劇祭で上演している。



© david baltzer bildbuehne.de

レギーネ・ドゥーラ (映画監督、作家)

Regine Dura (Regisseurin, Autorin)

ベルリンで映画を学んだ後、ヨーロッパフィルムアカデミーやヴィム・ヴェンダース・プロダクション等で活動。映画のキュレーターや審査員も務める。自身の監督作品にドキュメンタリー映画『White Blood』等。

クレージンガーとドゥーラは、2000年より共同で多くのドキュメンタリー演劇を手がけ、『Stolpersteine Staatstheater』はTheatertreffen 2016上演作品にも選ばれた。ヴィラ鴨川滞在中は、ドイツ赤軍RAFや日本の赤軍を例に、政治的動機による暴力の爪痕と構造や、旧東独とのつながりを調査し、演劇作品を創作予定。



小崎 哲哉 (司会、構成)

Tetsuya Ozaki (Moderator)

1955年東京生まれ。ウェブマガジン『REALKYOTO』発行人兼編集長。写真集『百年の愚行』『続・百年の愚行』を編著者として刊行し、現代アート雑誌『ART IT』を創刊した。京都造形芸術大学大学院芸術研究センター客員研究員、同大学舞台芸術研究センター主任研究員、同大学院、愛知県立芸術大学講師。あいちトリエンナーレ2013のパフォーミングアーツ統括プロデューサーも担当した。2018年3月、『現代アートとは何か』を河出書房新社より刊行。realkyoto.jp



高山 明 (演出家)

Akira Takayama (Regisseur)

1969年生まれ。2002年、PortB (ポルト・ビー)を結成。既存の演劇の枠組を超え、実際の都市を使ったインスタレーション、ツアー・パフォーマンス、社会実験プロジェクトなど、現実の都市や社会に介入する活動を世界各地で展開している。近年では、美術、観光、文学、都市プロジェクトといった異分野とのコラボレーションに活動の領域を拡げ、演劇的発想・思考によって様々なジャンルでの可能性の開拓に取り組んでいる。2016年より東京芸術大学大学院映像研究科准教授。portb.net



主催・お問い合わせ
Goethe-Institut Villa Kamogawa
京都市左京区吉田河原町19-3 (川端通り荒神橋上る)

TEL: 075-761-2188 (内線31#)
info@villa-kamogawa.goethe.org
www.goethe.de/villa-kamogawa

〈交通のご案内〉

京阪電車 出町柳駅より南へ徒歩8分
京阪電車 神宮丸太町駅より北へ徒歩6分

館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』も、ドイツビールや軽食などをご用意して、皆様のお越しをお待ちしています。(カフェ・ミュラーでの飲食は各自で負担ください)



© David Baltzer / Agentur Zenit

GOETHE
INSTITUT
VILLA KAMOGAWA